

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

平成 28 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

創造科学技術大学院長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成27年度の改善状況を報告します。

| |
|---|
| 要改善事項 |
| 【基準3】評価に関しては、多面的な評価が十分ではない。 |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む） |
| 社会のニーズにこたえ、社会で通用する人材を育てられるか、社会貢献などを人材育成に活かしているかなど、指導する資質の観点からも教員の評価ができるよう評価方法・項目の見直しを検討する。25年度中に具体的な検討を終え、次年度の昇給、期末手当に関する教員評価等に反映させる。 |
| 改善状況 |
| 今年度も、全学で定められた基準に則り教員の評価を行った。しかしながら最終的待遇への反映は教員が所属する部局の判断に委ねられたため、本大学院内では最終的な反映結果を把握できない状況にある。 |
| 達成年度（予定を含む） |
| 引き続き検討する。 |

| |
|--|
| 要改善事項 |
| 【基準5】修了生の質の保証（改善による効果はどのように測るのか） 【基準8】教育の質の定量化の方法 |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む） |
| 論文数、論文の質、論文のインパクトファクター、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを、大学院長表彰に反映し、web等でもリアルタイムで紹介するとともに、学長表彰候補者として推薦するなど、質の向上につなげている。学生への教育の質の定量化は、企業へのアンケートなどを含めて課題として検討して行く。 |
| 改善状況 |
| 1. 論文数、論文の質、論文のインパクトファクター、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを教育の質の評価データはH26年度からとりまとめH28 |

| |
|---|
| 年度中に一旦集計し、質的評価の指標化を検討する。2. 企業アンケートに基づく教育の質の定量化は、母集団も小さいため中期的に検討したい。 |
| 達成年度（予定を含む） |
| 1. H28年度；2. H28年度検討開始、H30年度達成予定 |

| |
|---|
| 要改善事項 |
| 【基準6】就職した人たちの追跡調査を行い、創造科学技術大学院教育の効果、有効性を検証されたい。 |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む） |
| 修了生の就職先とその推移から検証を試みる。25年度内に、これまでの年度毎の就職先を産学官に分類した一覧表にまとめてWebサイトで公表すると共に、次年度以降もデータを蓄積して公表する。また現在、創造科学技術大学院の同窓会組織を立ち上げる準備を進めており、修了生の現状を把握および追跡調査を実施する予定である。 |
| 改善状況 |
| 同窓会ホームページを開設したが修了生への情報発信が不十分であった。H27年度内に同窓生の連絡先の一部を確認したが、修了生の半数を占める留学生の連絡先が十分把握されていないため、追跡調査を実施する。博士人材の進路追跡のためのプラットフォームとして整備されつつあるJGRADへの参加を検討する。 |
| 達成年度（予定を含む） |
| H29年度 |

| |
|---|
| 要改善事項 |
| 【基準9】事務に、運営、調査、広報などを担当する企画部門が必要。企画や調査資料作成等の業務や教育補助を担当する方がいない。 |
| 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む） |
| 事務職員の削減が進む中で部局の事務に新たな部門を担当する職員の配置は困難な状況もあり、財務施設部・総務部・企画部との連携を強めて対応していく。 |
| 改善状況 |
| 引き続き、財務施設部・総務部・企画部との連携を試みるが、現時点ではその目途は立っていない。 |
| 達成年度（予定を含む） |
| 引き続き検討する。 |